今秋 市制10周年記念 スポーツの育成を重点に

市教育委員会と体育指導委員会では子供からお年寄りまで、あらゆる年代の人が、よりよくスポーツを愛し、生活の中に取り入れ楽しんでいただけるよう、地域スポーツの普及と振興に取り組んでいます。

今年度は特に、スポーツ指導者の育成を重点的に進め、市民の自主的自発的なスポーツ活動の拡大と、多様化し多目的化する地域スポーツの振興にこたえられるようにして行きたいと考えます。そしてこれにより、スポーツ指導者の資質の向上と定着化をはかり、スポーツ指導員の制度化をはかっていく予定です。

事業内容としては、高齢者スポーツ青少年スポーツ、地域スポーツの三つを対象にした指導者の育成――高齢者スポーツでは、ゲートボールの実技と審判の講習を、青少年スポーツでは、スポーツ活動を通して青少年の健全育成を図るという目的のなかで指導者のあり方の研修を、地域スポーツでは、地域における指導者の役割および市民の望む効果的なスポーツ事業の進め方などの研修を行います。

昭和57年度教育委員会社会体育事業

	事　業　名
57年4月	●高齢者スポーツ指導者育成講習会 ●おはようサイクリング
5月	●青少年スポーツ指導者研修会 ●おはようサイクリング
6月	●地域スポーツ指導者研修会 ●社会体育推進交流会
7月	●親子水泳教室 ●子どもソフトボール大会
8月	
9月	
10月	●市制10周年記念 市民スポーツカーニバル
11月	●市制10周年記念 市民スポーツカーニバル
12月	
58年1月	●耐寒愛宕山登山
2月	●市民スキー教室
3月	●市民ハイキング

固定資産課税台帳の縦覧

4月8日から

昭和57年度分の固定資産課税台帳の縦覧を、4月8日から27日までの間（日曜は除く）に、税務課固定資産税係で行います。

固定資産縦覧制度は、市税である固定資産税を納税する人のために、固定資産の状況などを登録した固定資産課税台帳をご覧いただき、評価額や所有者の住所氏名などの登録事項に誤りがないかどうかを確めていただき、正しい税額を確定させようとする制度です。

固定資産課税台帳を縦覧することができる方は、原則として、固定資産の関係者（所有者またはその家族代理権を有する代理人）です。縦覧時間は、午前8時30分から午後5時（土曜日は午前中）です。

縦覧ご希望の方はお気軽にお越しください。

〔お問い合わせ〕税務課固定資産税係　内線225

ご参加ください 市民おはようサイクリング

▼**とき**　4月25日（日）・5月9日（日）　午前8時～11時

▼**行先**　4月25日＝大原野大山崎方面　5月9日＝桂川、嵐山方面（サイクリングロード）

▼**対象**　小学生以上の市民

▼**集合場所**　市役所玄関前

▼**参加料**　100円

▼**その他**　参加者に「自転車安全全教室」（全日本安全協会発行の冊子）を配布

▼**申込方法**　4月20日までに参加料を添えて教育委員会へ

▼**主催**　教育委員会・体育指導委員会

※自転車は各自持参のこと

〔お問い合わせ〕教育委員会社会教育課　☎931―1181

向日市生活学校が解散

向日市生活学校は、3月31日をもって解散することになりました。

生活学校は毎日の暮らしの中でおこる不安や疑問について学習したり、より豊かな生活と住みよい町づくりや安全な生活をめざす団体として、昭和43年に中央公民館を事務局に結成されました。一時は主体メンバーも50名をこえ、地道に確実な活動を展開してきましたが、最近、行政や民間機関の消費者問題の情報も多くなり、メンバーも減少して運動推進は大変困難になり、解散することになったものです。

また、洗剤、チフレ化粧品などの斡旋も打切らせていただきます。

春の全国交通安全運動

4月6日～15日

だいじょうぶ

でももう一度右左

駅前観光案内板が新しくなりました

もうすでにお気づきの方もおられると思いますが、3月15日から阪急東向日駅・西向日駅、国鉄向日町駅の駅前に、新しい観光案内板が設置されています。この案内板は、今までの案内板が老朽化し、また官公署などの新設や移転があったため新しくしたものです。

案内板は、来訪者の観光のためはもちろん、市民の方にも文化財などの認識を深めてもらえるよう、たて一・九㎜、よこ二・八㎜と大きく、見やすいイラストで、一目で史跡などがわかるように描かれています。また、支柱は乙訓の竹にちなみ、竹擬木であしらわれています。

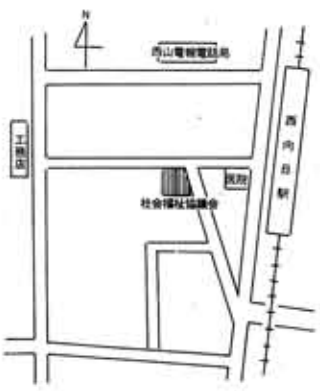
向日市社会福祉協議会事務所が移転

市民会館（3階）にある向日市社会福祉協議会の事務所が左記の場所へ移転します。

〔移転日〕　4月5日（月）

〔移転先〕　上植野町御塔道7番地の2（元向日町地方振興局2階）

☎931―1960



桜まつり

4月10日(土)・11日(日)

向日神社境内一円

〈雨天決行〉

主催　向日市商工連合会

後援　向日市

プログラム

10日（土）

午前10時30分　祈願祭・植樹祭

午後1時　バトントワラー（西山高校）

2時　ブラスバンド（向陽高校）

3時　テクニトーン・ミニコンサート（一木楽器）

4時　向日ふるさと音頭・民謡他（くれたけ会）

6時　奇術・漫談・演歌他（ゼンジー一億・岬ひろし・一丘十世子・楽団中央カルテット）

11日（日）

午前11時　テクニトーン・ミニコンサート（一木楽器）

12時　歌謡曲

午後1時　日本舞踊（若柳吉弥古社中）

2時　謡曲・詩吟・民謡他（老人福祉センターサークル）

4時　民謡（ふるさと民謡会）

6時　カラオケのど自慢

※その他　お茶席（表千家・岡崎社中）生花展（未生流阪本社中）・琴演奏（生田流木村社中）・模擬店

ひまわり公園

この日時計は、直径三・六メートルの円型で、特殊なタイルで「ひまわり」の花をモザイク調にアレンジ。中央に人が立つと、その影で時刻がわかるようになっています

総事業費は千二百十二万円でした。

市史編さん活動日誌から㉕

火雷神と丹塗矢伝承

上田正昭（京都大学教授）

『延喜式』に記載する乙訓郡の古社のなかの注目すべき名神大社に、「乙訓にます火雷（ほのいかづち）神社」がある。その鎮座が大宝二年（七〇二）七月以前にさかのぼることは、『続日本紀』の大宝二年七月八日の条が「乙訓郡に在る火雷神」に祈雨したところ、しきりに「霊験」があって、官社となったことをしるしているのにもたしかめられる。

天平七年（七三五）四月には、山城国から乙訓神（火雷神）へ神戸として六戸があてられたと伝えるが（『新抄格勅符抄』）宝亀五年（七七四）六月には「狩猟」（さいろう）の怪異にもとづいて奉幣されたことなどが『続日本紀』にみえる。そして延暦三年（七八四）の十一月には長岡遷都にちなんで、賀茂上下社に神従二位、松尾・乙訓の両社に神階従五位下を贈りまた賀茂上下社と松尾・乙訓両社の修理がなされた。

乙訓神の神階はその後累進し、貞観元年（八五九）には従四位下となる。承和五年（八三八）には奉幣して「晴を祈り」、同七年には「甘雨を祈って」風災をはらったと『続日本後紀』に書きとめる。こうした所伝にもうかがわれるごとく、乙訓の火雷神には、「祈雨」・「止雨」の雷雨神としての信仰が濃厚に反映されていた。

乙訓の火雷神にかんしては、『山城国風土記』の逸文に描く丹塗矢（にぬりや）伝承が興味深い。玉依日賣（たまよりひめ）が瀬見の小川で川遊びをしていた時に、丹塗矢が川上から流れてきたというその矢を床（とこ）のあたりにさしおいたところついにはらんで男子を生んだと物語る。この丹塗矢は「乙訓郡の社にませる火雷神なり」とのべる。

丹塗矢伝承は前述の賀茂の祭神をめぐる神婚譚ばかりでなく、たとえば『古事記』に伝える大物主神と勢夜陀多良比賣（せやだたらひめ）の神婚譚などがある。丹塗矢は神霊の宿る聖なる矢であったが、雷神・雷光などのシンボルとされる場合が多い。『山城国風土記』逸文の火雷神の伝えも、乙訓神が雷雨神として古くからあがめられていたことを示唆する。同類の丹塗矢伝承は『秦氏本系帳』にもしるされているもっともその後半の部分では「戸上の矢は松尾大明神なり」と松尾の神に関連づけているが、乙訓の火雷神が賀茂社や松尾社ともつながりをもつ信仰のなかで祭祀されたことは、長岡遷都にちなんでの賀茂・松尾・乙訓の神への同時神階昇叙・同時修理などの例からも推察されよう。